健やかぐんま

Sukoyaka Gunma

vol.1
2013.7

Summer!

特集

座談会　がん検診受診率向上の手掛かりを探る

～内閣府：がん対策に関する調査結果から～ P2-5

●「リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2013 ぐんま」
開催のお知らせ P6・7

●健康づくり財団からのお知らせ P8

公益財団法人 群馬県健康づくり財団

特集

〈テーマ〉がん検診受診率向上の手掛かりを探る

内閣府 がん対策に関する調査結果から

平成25年3月に決定した「群馬県がん対策推進計画～がんに強い地域社会の構築を目指して～」の具体的な数値目標の1つでもあるがん検診受診率50％（H29）にむけた今後についてがん対策に係る関係者それぞれの立場で語っていただきました。

(%)

種別	性別	胃がん	肺がん	大腸がん	子宮がん	乳がん
群馬	男性	37.1	28.5	28.9		
	女性	30.7	26.4	24.1	26.4	25.3
全国	男性	34.3	24.9	27.4		
	女性	26.3	21.2	22.6	24.3	24.3

国民生活基礎調査による
がん検診受診率（平成22年）

下村　群馬県のがん検診の現状をどのようにとらえていますか？

小山　公衆衛生は、コミュニティーの努力によってなされる保健活動ですが、現在の地域保健活動は全般的に個人中心になってきているので、地域の保健師さんの活動が難しくなってきています。がん検診についても個々ではなく地域の組織への働きかけをすることにより、受診率を向上することができるのではないでしょうか。

群馬大学大学院
医学系研究科公衆衛生学分野／教授
小山　洋

西村　今は、個人個人が自分の価値観で生活しています。小山先生のおっしゃるグループ、地域でまとまってというアプローチの仕方が大切だと思いますが、グループと行政がどう協働出来るかが課題です。

持田　大泉町でも、平成23年に検診の自己負担金を徴収するようになったら受診率が減少しました。徐々に回復しつつありますが自己負担金徴収前までには、まだ達していない状況です。住民は、自分に必要な検診を選択して受診しているように感じます。また受診率の母数の把握が十分にできていないのが現状です。ターゲットを絞ってアプローチしていく必要があると思います。

関口　弊社のがん検診は、健康保険組合が実施主体ですが、職場の定期健康診断と同時に実施しているので、受診環境は恵まれていると思います。高年齢化が進み40～50代の方が多くなりました。がん検診の受診勧奨や対象者全員に受診票を配布するようにしました。

下村　職域での受診数は受診率には反映されていないのが現状ですよね？

西村　そうですね、そもそも受診率をどうやって把握するかが課題です。県では、今年度初めて、県医師会や検診機関の協力を得て、市町村の検診以外でどの位の人が、がん検診を受けているか、把握する予定です。

根岸　私は、市のがん検診で精密検査となり、がんが発見できました。そして今日があります。患者というよりは県民という立場で、受診率がどのくらいかということより自分は大丈夫か？が受診の動機でした。検診の通知がきた時は、受診しようと思う人は多く、個人としての関心度は高いと思います。自覚症状がない時は検診を受けなければ見つけることができないということを、自分のようながん体験者が、もっと強く知らせていきたいと思っています。

茂木　胃腸科の医師として県の「がんに強いぐんまづくり推進サポーターの養成研修」※1で話をすることになっています。いままでの経験をサポーターの方々にお伝えし、サポーターを介して多くの人にがん検診の大切さを伝えていただければ、受診する人も増えるのではないでしょうか。

下村　他国に比べ日本の受診率が極端に低いが、どういうことですか？

小山　医療保険制度の違いや、家庭医制度など、検診を取り巻く制度が全く違うので、単にがん検診の受診率を比較するのは難しいでしょう。

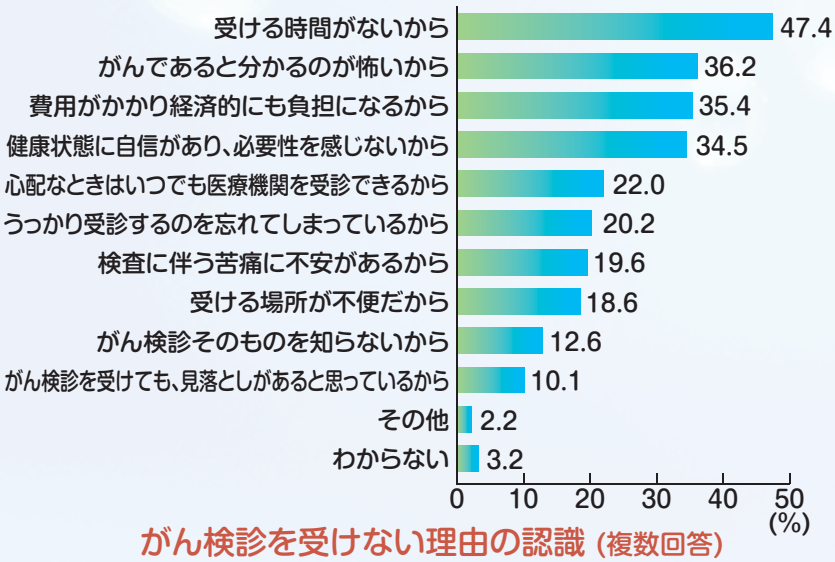
西村　日本では、いざ

群馬県健康福祉部保健予防課
がん対策推進室／室長
西村　透

という時にはすぐに医療機関にかかれますよね。韓国は、検診を無料化し、受診率が向上しましたが、今後も受診率を継続的に見て行く必要があると思います。

小山 検診を無料化にしても受診率が100%になるわけではないと思います。

がんの予防・早期発見について



がん検診を受けない理由の認識（複数回答）

下村 内閣府のアンケートの中で、がん検診を受けないのはなぜだと思いますか?の回答で「時間がない」47%・「がんだとわかるのが怖い」36%・「費用がかかり経済的に負担」35%とありますが、このことについてどう思いますか?

西村 平成19・21年のアンケートでは、検診を実際に受けなかった人に対し、なぜ受けなかったのかを質問していますが、今回は、「受けなかった理由は何だと思いますか?」という内容になっています。自分が検診を受けなかった理由ではないので、がん検診の必要性をどこまで理解しての回答か分からない印象を持っています。

根岸 実状に近いかなという印象を持ちました。「がんといわれるのが怖い」という理由は分かる気がします。「私は大丈夫です」という方がいるが、そのような人も時間がないに含まれているように思います。知識としては、早期発見できれば、最近はがんでも大丈夫だということは分かっていて、検診に関心はあるように思いますが、自覚症状がない時にがんといわれるのは、相当な打撃だと思います。そんな理由で、検診を先延ばしにしてしまうというところはあると思います。

下村 実際の現場で検診を受けない人の理由はどんな事ですか?

持田 保健師として関わる方は、わりと検診や健康について関心が高い方です。いくらペーパー等で通知をしても効果が低い無関心層への受診勧奨は難しいところです。検診費用の自己負担が理由で受診しないことについては現場でも感じています。

大泉町役場
健康推進部健康づくり課／保健師
持田　恵理

関口 職場での検診では、仕事中にバリウムを飲んだ後の排泄が大変という意見で胃がん検診を受けないという方が多いですね。

がん対策に関する政府への要望

下村 政府として力を入れてほしい事について、がんの早期発見という答えが最も多く67・2%でしたが・・

根岸 見つけてはほしいが、検診を受けることには、二の足を踏んでしまうという矛盾した気持ちがあるように思います。

下村 がんに対する知識があり、早期発見には、検診を受けることが大切だということはわかっていても、自分の事となると別だということなのでしょうか。

根岸 本当にその通りだと思います。

茂木 精密検査が必要と言われてから結果が出るまで、眠れなかったという話をよく聞きます。その結果が、異常なかった場合、もう来年は受けなくていいかなと思ったり、でもいろいろな情報は入ってくる。頭ではわかっているが、行動が・・・ということがあると思います。

下村 そこを整合させていけば一歩前に踏み出せるということでしょうか。

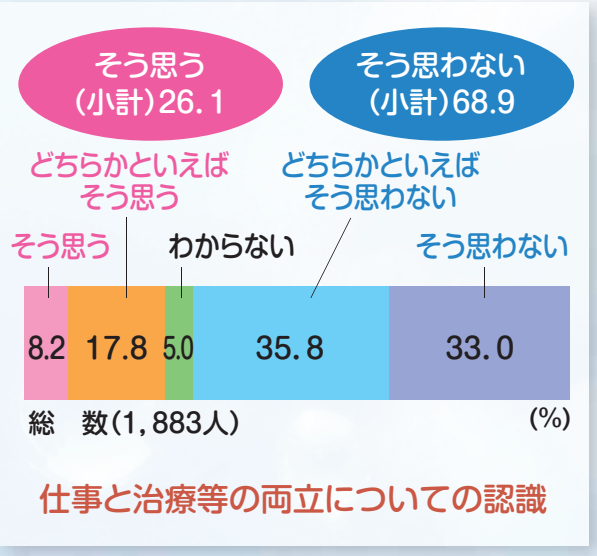
小山 検診に　行く、行かないのわずかな天秤だと思いま

群馬県がん患者団体連絡協議会
（ひまわりの会）／
根岸　利光

す。それを今は個人にゆだねていますが、そうではなくて、誰かが、きっかけを作ってあげる、少し背中を押してあげることができればよいのだと思います。それを地域の保健師さんがすべてやるのは無理なので、住民や地域のまとまりの中でそれができれば効果的です。そういう意味で県のサポーター制度は、とても効果的だと思います。

持田　住民もがんについてある程度の知識は持っていますが、細かい部分では誤認識をしているところもあるので、そのあたりは、市町村だけでなく、いろいろなところで情報提供していく必要があると思います。保健師がいくら「検診を受けてね」と声をかけても、十分ではないので、サポーターや地域の方の力も借りて行きたいと思います。

がん患者と社会のつながりについて



仕事と治療等の両立についての認識

下村　「現在の日本社会は、がんの治療や検査のために、2週間に一度程度病院に通う必要がある場合、働き続けられる環境だと思いますか？」の問いに7割近くのひとが「そのようには思わない」と答えていますが、治療と仕事の両立についてどう思われますか？

関口　弊社では、かなり恵まれた環境にあると思います。抗がん剤治療を受けながら働いている方もおります。また、病状に応じ休暇などの規則もあります。

下村　どこの職場でもそのような状況になればいいですね。

日本精工株式会社／看護師
関口ふじ江

がん登録について

下村　がん登録の認知度は低いが、必要だと思う方は8割近くいることについてがん登録事業に実際に携わっている茂木先生、どのように感じますか？

茂木　がん登録事業自体、特にPRをしているわけではないので、認知度が低いのは当然だと思います。一般の方の目に触れることはほとんどないのが現状でしょう。

小山　今までは、財団の機関誌等でその成果を発表し、それを市町村の方が住民の方に伝えて、がん対策に活用してきました。今後も住民に分かりやすく見ていただき理解してもらえるといいですね。健康づくり財団のアピールにもなると思います。

根岸　がん登録の結果に、がん患者はかなり影響されています。群馬県のようにがん登録の精度がよく、ある程度正確ながんの実態が分かることは、患者にとってとても役立つので、上手にフィードバックしてほしい。がん患者はとても関心のあるところだと思います。

がん登録※2

30年あまりの検診事業を通して

下村　健康づくり財団で30年あまり検診事業を実施してきた経験から、受診率に影響すると思われる事についてお話しさせていただきたいと思います。

①集団検診に関しては、自己負担金の増減で受診率は動く。

②無料クーポンで、受診率は上がる。（10～15%）

③がん検診に係る国からの補助金が、特定財源から一般財源化になった平成10年頃から、受診率が伸びなくなった。（自己負担を取るところが増えてきた。）

④検診の実施の仕方を工夫すると、受診率が上がる。住民のニーズや特性に合致すれば1割程度上がる。（十分に特性を見極めなくてはならない。）

⑤丁寧な個人通知により若干上がる。（個人通知・コールセンター・未受診者通知等すべて請け負う業者もある。）

⑥現在の検診方法に限界があるのか？

・例えば胃がん検診後のトラブルを防止するため、実施機関として受診時の禁忌事項を増やしたことも受診率が伸びない1つの原因かも知れない。

・ある市町村ではABC検診とバリウム検診の選択制により、バリウム検診の受診者数が減少した。

⑦啓発活動

・有名人の罹患の報道で一過性に上がる。

このようなことが見えていますが、どうお感じになりますか？

小山 検診を受ける、受けないが個人の判断だけで行われているように思います。そうなると行かない理由はいくらでも出てきます。個人の判断だけではなくて、グループや地域でまとまって意見を出して、検診を計画していくことによって受診率が向上するのではないでしょうか。

西村 個人へのきめ細かい対応が大切だと思いますが、できることは限られるので、地域のグループに向かって投げかけて、それぞれのグループの中で自主的な動きが出ると良いですね。はじめは大変でも、大きな力になると思います。群馬県がん対策推進計画の副題「がんに強い地域社会の構築を目指して」のとおり地域社会の構築ということが、受診率向上のためにも必要ではないでしょうか。検診の実施主体である市町村では、きめ細かい対応をしてもらい、県としては、検診の必要性を広く啓発していくという両輪でやっていければと思っています。

根岸 がんになった人が、受診率向上にどのように関わっていけるのか、地域でがんになった人が、「でもこんなに元気ですよ」と言える人が増えることが大切だと思います。がんは、早期発見すれば、決して怖いものではないんだということ、がんになっても大丈夫な社会ができつつあるということをピーアールしていきたいと思っています。今年、群馬県で初めて開催されるリレー・フォー・ライフ（P6～7）は、その絶好の機会なので、とても期待しています。

関口 企業は、あまり地域と関わっていないのが実状です。企業の受診率が、地域に反映されれば地域の受診率も多少変わってくるのではないでしょうか。

茂木 がんの事をあまりよく知らないため、漠然とした不安が大きいのだと思います。もう少し具体的にお話して、がんを知ってもらうことによって、検診を受けようか迷っている人の背中を押したいと思います。

群馬県健康づくり財団診療所／院長
茂木　文孝

持田 根岸さんのような、説得力ある話をしていただけるがん体験者の方とコラボレーションして啓発活動をしていきたいと思います。

小山 内閣府のアンケートで、政府に望むものとして、「早期発見（がん検診）」が非常に高い結果でした。国は国、県は県、市町村は市町村それぞれやるべきことがあると思います。地域社会の役割をなんとか促進して、まとまりでやってゆく意義を見直し、そのような中で市町村が頑張り、地域社会を創っていくことが、がん対策にも効果的だと思います。

下村 知識の普及もある程度進んで、受診率が上がるもう少しのところまで来ているように思います。みなさんのいろいろな意見をうまく組み合わせていくことが受診率向上につながるのではないでしょうか。検診機関である健康づくり財団としては、今後さらに市町村と連携して、がん検診受診率向上に関わっていきたいと考えています。

司会
群馬県健康づくり財団／総務部長
下村　泰久

※1 群馬県では、県内市町村においてがんに強いぐんまづくり推進サポーター養成講座を開催し、受講していただいた方を「がんに強いぐんまづくり推進サポーター」に認定し、がん受診率向上のため、地域住民の皆様に対して定期的ながん検診受診を呼びかけるなどの啓発活動を行っていただいています。

※2 都道府県単位で、がん患者さんの医療情報を収集し登録する制度を地域がん登録といいます。がん対策を実施する際に、毎年どのくらいの方ががんで亡くなっているか（死亡数）、毎年どのくらいの数のがんが新たに診断されているか（罹患数）、がんと診断された人がその後どのくらいの割合で生存しているか（生存率）といったがんの実態を把握するための重要な制度です。

がん患者さんたちのためのチャリティーウォークイベント

リレー・フォー・ライフ・ジャパン2013ぐんま

平成25年

10月12日(土)12:00 開会

～13日(日)12:00 閉会

会場 **群馬総合スポーツセンター**
(前橋市関根町800)
ふれあいグラウンド、サブアリーナ

リレー・フォー・ライフについて

リレー・フォー・ライフ(命のリレー)は、がんと闘う方々の勇気を称え、がん患者や家族、友人、支援者と共に地域一丸となってがんと闘う連帯感を育み、がんで悩むことのない社会を実現するために、夜通し交代で歩きながら行うチャリティーイベントです。

寄付金は広く対がん活動に使われます。

▲リレーウォークの様子

ステージでは
楽しい音楽、
パフォーマンスが
いっぱいです

啓発ブースでは
子どもから
大人まで
がんについて
学べます

骨密度検査、
血管年齢検査、
脳年齢検査などの
各種健康チェックを
実施しています

日本人男性の2人に1人、女性の2.5人に1人ががんになる時代…
一緒に歩いて、話して、考えてみませんか?

どなたでも参加できます!

◆リレーウォーク　（チーム・個人）

チーム参加の場合、10～15 人程度（夜通し交代で歩くことができる人数）で 1 チームつくります。
ご家族、ご友人、同僚の方たちとご参加ください。おひとりでも参加できます。
▶参加費：チーム参加の場合、1 チーム　3,000 円／個人参加の場合　500 円
（サバイバー、高校生以下は無料）　※サバイバー：がんの告知を受けたことがある方

◆ルミナリエ袋

ろうびきの袋に、がんでなくなった方を偲び、現在がんと闘っている方々へエールを送るメッセージ、あなたの願いや絵などを書いていただきます。夜間はルミナリエの中に灯りをともし、リレーウォークのコースを照らします。
▶ルミナリエ 1 枚
団体で購入の場合　300 円／個人で購入の場合　500 円

▲灯りをともしたルミナリエ

◆寄 付

リレー・フォー・ライフは皆さまの厚意で支えられるイベントです。
ご協力お願いいたします。

リレー・フォー・
ライフ・ジャパン
2013ぐんまの
スローガンは
「つながろう
がんに負けない
いのちのリレー」です。
みなさん、
会場でお会いしましょう！

お問合わせ先

公益財団法人群馬県健康づくり財団
総務部企画広報課 リレー・フォー・ライフ・ジャパン2013ぐんま事務局
〒371-0005 群馬県前橋市堀之下町16-1
TEL:027-269-7811　FAX:027-269-8928　E-mail:kikaku@gunma-hf.jp
http://relayforlife.jp/gunma/

デジタルマンモグラフィ検診車導入

当財団では、最新の医療機器を用いた精度の高いがん検診を提供しております。

このたび、公益財団法人ＪＫＡ（旧財団法人日本自転車振興会）の補助金により、最新の装置を搭載したマンモグラフィ検診車を導入することとなりました。

この検診車は当財団で５台目のマンモグラフィ検診車ですが、デジタル撮影機器搭載車としては初めてとなります。さらにデジタル撮影機器を２台搭載しているマンモグラフィ検診車は県内初です。

最新のデジタルマンモグラフィ撮影装置と画像読取装置を導入することにより、撮影した画像をすぐに確認できることから撮影ミスはなくなります。

複十字シール募金運動結果のご報告

ご協力ありがとうございます。

平成24年度の複十字シール募金運動で群馬県内から寄せられた皆様からの募金総額は、416万2,444円に達しました。

これらの尊い募金は、結核や肺がんなどの胸部疾患撲滅や結核で苦しんでいる途上国の人々のために役立たせていただいております。

これからも複十字シール運動をどうぞよろしくお願いいたします。

運動期間　８月１日～12月31日（運動期間外も募金を受け付けております）

結核予防週間　９月24日～９月30日

公益法人への移行のご挨拶

このたび、財団法人群馬県健康づくり財団は、群馬県知事より公益財団法人の認定を受け、平成25年４月１日より「公益財団法人　群馬県健康づくり財団」となりました。

これからも、県民の皆さまから信頼される健康づくり財団として、より精度の高い検診・検査・測定事業を行い、また、疾病予防、健康増進に係る啓発事業を展開し、社会全体に貢献していく所存でございます。

役職員一同気持ちを新たに事業を推進してまいりますので、一層のご指導ご支援を賜りますよう、今後ともよろしくお願い申し上げます。

群馬県地域保健研究会開催について

平成26年2月に開催する予定です。

この学会は、研究発表を通じて保健衛生の向上を図り、県民の健康増進に寄与するため、また、保健従事者の交流を目的として開催されます。

研究発表事例の募集要領など詳細がまとまり次第、各関係機関の皆様にお知らせいたします。

健やかぐんま vol.1 2013.7

編　集●公益財団法人 群馬県健康づくり財団　総務部　企画広報課
発　行●公益財団法人 群馬県健康づくり財団　理事長　月岡 閧夫
〒371-0005 群馬県前橋市堀之下町16－1　TEL.027-269-7811　FAX.027-269-8928
印　刷●松本印刷工業株式会社